

本症例の症例プレゼンの 解説と評価のルーブリック

初めに主訴である発熱に関して鑑別診断を優先順位および根拠とともに述べます。誤嚥性肺炎の重症度評価として、肺炎の重症度分類である CURB65 や敗血症を示唆

する臓器障害がないことに言及し、診断や治療のプランは具体的に述べます。例えば、嚥下機能障害の評価としてすぐに RSST や水飲みテストを行うこと、抗菌薬はスルバクタム/アンピシリンを 1 回 3 g, 1 日 3 回投与することなどです。

	A (研修医として優れている)	B (研修医として及第点)	C (改善が必要)
構成	一文サマリー→病歴 (S)→身体・検査所見 (O)→アセスメント・プラン (A/P) の順で述べ構成が崩れていない	聞きづらいほどではないが、順序、構成が時に崩れることがある	構成が頻繁に崩れて行き来するため聞きづらい
一文サマリー	ID, 主訴, 関連する重要な既往歴などの必要な情報がすべて入っており, かつ余計な情報が入っていない	必要な情報が一部抜けている, あるいは余計な情報が一部入っている	必要な情報が抜けている。余計な情報が複数入っている。一文サマリーを述べない
	必要な情報: 80 歳女性/主訴-発熱/脳梗塞, 脳血管性認知症, サルコペニア, 繰り返す誤嚥 余計な情報の例: 高血圧症, 機能性便秘症		
病歴 (S)	時系列に沿って述べ, 「〇月×日」ではなく, 「〇日前」, 「〇週前」と表現している	時に時系列が崩れるが理解可能である	時系列に沿っていないため聞き手の理解を損なう。「〇月×日」と表現している, あるいは混在している
	不要な繰り返しや関連しない情報が含まれず, 簡潔にまとまっている	概ね簡潔にまとまっている	聞き手の理解を妨げるほど不要な情報が多い
	不要な情報の例: 個々の誤嚥のエピソードの詳細, 点眼薬や外用薬の使用, 胃癌の家族歴		
	関連する陽性・陰性所見を概ね述べている	陽性・陰性症状の抜けがあるが, 鑑別診断や病状の評価への影響は大きくない	陽性・陰性症状が大幅に抜けており, 鑑別診断や病状の評価に大きく影響する
	陽性: 繰り返す誤嚥/喀痰貯留/発熱/脳梗塞, 脳血管性認知症, ADL 陰性: 起坐呼吸, 浮腫, 肺疾患や心疾患の既往/結核の既往・曝露歴/上気道炎患者との接触/喫煙歴/肺炎球菌ワクチン など		
身体・検査所見 (O)	バイタルサインを述べた		バイタルサインを述べていない
	関連する陽性・陰性所見を概ね述べている	陽性・陰性症状の抜けがあるが, 鑑別診断や病状の評価への影響は大きくない	陽性・陰性症状が大幅に抜けており, 鑑別診断や病状の評価に大きく影響する
	陽性: 体重, BMI 水泡音/口腔内汚染・歯牙の欠損/炎症反応上昇/ PaO_2 ・ PaCO_2 /喀痰グラム染色/胸部 X 線 陰性: 喘鳴/心音・頸静脈怒張・浮腫/臓器障害		
	前回との比較・推移が重要な情報ではそれを述べている		比較すべき情報があるが言及していない
アセスメント (A)	プロブレムリストを適切に挙げている	プロブレムリストを挙げたが一部不適切	プロブレムリストを挙げていない
	例: # 発熱, # 1 型呼吸不全, # 摂食嚥下障害 でもよいし # 誤嚥性肺炎 でもよい		

(つづく)

(つづき)

アセスメント (A)	主訴に対して鑑別診断を優先順位をつけて挙げ、根拠とともに論理的に述べている	鑑別診断を挙げているが根拠が不十分あるいは論理的でない	鑑別診断を挙げしていない
	主病名に関して病型や原因、重症度に言及している	病型や原因、重症度に関して不十分ながらも言及している	病型や原因、重症度に関しての言及が著しく不足している、あるいはない
	病型：誤嚥性肺炎 重症度：A-DROP/CURB65, SIRS/qSOFA・SOFA ※重症度やスコアは多少間違っても OK		
プラン (P)	主病名に関して治療プランを具体的に述べ、Disposition (患者処遇) に言及している	治療プランが不十分	治療プランが具体的でない。Disposition に言及していない
	※細かい治療プランが適切か否かは問わない：抗菌薬選択や用量など		
	診断がついていないプロブレムに対して鑑別診断を優先順位をつけて挙げ、診断プランを述べている	不十分あるいは優先順位が明確でないが鑑別診断および診断プランを挙げている	鑑別診断への言及がない、診断プランがない
	※本症例では特になし		
タイムマネジメント	制限時間内にプレゼンを終えた		制限時間内にプレゼンを終えられなかった
デリバリー	速度、声調・声量、間合い、視線・表情、姿勢・身振りが適切で聞きやすい	速度、声調・声量、間合い、視線・表情、姿勢・身振りに大きな問題はない	速度、声調・声量、間合い、視線・表情、姿勢・身振りが適切でないために聞き手の妨げになっている